

○平成29年度 第2回社会教育委員会

開催日時：平成29年6月13日（火）19：00～20：45

場 所：島田市役所 会議棟 C会議室

□協議事項「家庭教育の在り方について」

1 家庭教育の在り方について、皆さんの捉えかた（私はこう考える）

- ・ 生まれてから人格形成がされていき、最終的に自立してある程度社会に貢献できるようなひとりになってもらうにはどういう家庭教育がいいか。
- ・ 多様性を認める社会になってきたなかで、家庭教育はこうあるべきと押し付けるのは無理がある。
- ・ 子どもにとって、家庭が拠りどころになっているかどうか、考えていくことが大事。
- ・ 学校で教えてくれないことを家庭教育でやる。家庭教育で模範となる大人は、親、祖父母、近所のかた。ただ、模範の在り方は人それぞれ。自分が受けた家庭教育を経験として伝えていく。誰もが考えて、子どもに見せていくことができればいいと思う。
- ・ 終戦直後の生まれなので、厳しい親であった。家庭教育ということばを意識して子どもとして育った記憶はない。でも家庭は拠りどころ、居場所であった。
- ・ 現代の親は環境の変化もあり大変だと思う。家庭教育の中に親に対する問題があると。アレルギーや発達障害のことも。正しい知識をもたないと右往左往してしまう。
- ・ 娘達には常識があって人に迷惑をかけない、そういうことができているならば勉強も全てではないと思ってきた。娘達にとって母親は女性として尊敬できる存在らしい、私はそうではないらしいが、受験も近くなってくるので、回りの環境を整えるなどのサポートをしていきたい。
- ・ 今までの議事録を確認してもらい、発達障害などの子ども達への支援、支援の空白などの子育て支援の問題点、一般家庭のしつけ、家庭教育力の低下の3つ、社会教育課は親に力をつけてもらうのをサポートしているということなので、親力を視点に話し合っていくのがいいのかなと思った。
- ・ 幸せな子どもを増やさなければ。幸せな子どもを増やすには幸せなお母さんを増やさなければ。いかにお母さんを孤独にさせないか、重点を置いたほうがいいと思う。

2 0～2歳児のとき大事なこと

- ・ 初めての子どもをもつ講座、2～5ヶ月の子どもを持つお母さんを対象にした講座は、定員20名×6期＝120名／年で行っている。不安なお母さんがみんな不安で一緒だったことを共有し安心し、仲間づくりになり、支援センターと一緒に行く人達もいる。たくさん支援があることを知らない方もいるので、広報を上手

くしていかなければという課題もある。これらで子育てに自信がつくわけではないので、いつまでも不安がある。お母さんに対する拠りどころは必要。拠りどころ思える自分の居場所、家があるということと自分が好きだと思える子どもに育てるためにどうしたらいいかを考えながら育てていくことが大事だと思っている。

- ・ 0～2歳のときのお母さんの拠りどころがどこあるか。家庭なのか、支援センターなのか、雑誌の情報、病院、親、祖母、義母、夫など、子育てに関し言うことが違った。今は子どもが可愛くてみんな言ってくれたと判るが、当時は余裕もなく、お母さんにならなきゃと意固地になっていた。ゆっくりお母さんになればいい。回りも一人の人間として許容するようになればいい。出産二ヶ月目で仕事復帰したが、回りにいろいろ言われて傷ついた。理由があって講座とかに行けないお母さんもいると思うので、多様な価値観を認めるようになればいい。
- ・ 私自身楽に生きようと思っているので、結婚・子育ても大変だと思い、自分が子供を産むときには親がいる家に嫁ごと。夫もちゃんと仕事をしている人を。そうすれば子育て中は自分が働かなくてもいいと。幸せなお母さんではないかもしれないけど、子どもを育てるにはどのような環境がいいか考えていた気がする。
- ・ 保健師さんが時々家に来てくれて、話を聞いてくれたときはうれしかった。安心感をもらった。当時、赤ちゃんがかわいいと思ったことは一度もなかった。余裕がなく必死すぎて。今なら余裕で育てられるかな。今頑張っているお母さん達の話し相手になってあげられたらと思う。
- ・ 家で仕事をしているので合間に外へ連れ出した。アパートなどに暮らし、孤独と思う環境にいるお母さんには話し相手などの支援が必要。私は三世代で暮らしているし、お店に近所の人に来てあやしてくれた。
- ・ 妻が保育士だったので、ほとんど任せきりだった。あやしたりすることはあったが。
- ・ 二男だったけど、実家の近くに住んだ。実家の親が時々みてくれたが、私は妻に任せっきりだった。妻が今だから言うけど、当時は孤独だったよと。娘も働いており、孫は妻が育てたようなものである。
- ・ 私が仕事で忙しかったこともあって、自分の実家、妻の実家によくお世話になった。妻任せで、きっと孤独だった。
- ・ 子育てはお母さんがするものだと思いは家にももらった。妻は家でできる職業を身に付けた。すべてを任せたことはないが、子育てのときは100%子育てに集中して、手が離れたら社会に出て貢献するのが一番いいのではという考えだった。今の時代では怒られてしまうかも。
- ・ 父親の兄弟が9人だった。小さい頃から子どもと触れ合ったから、子どものオムツを代えるのとかお風呂へ入れるのは当然、自分がやった。小さい子を抱くというのを今の子ども達に経験してほしい。市内の中学でやっているようだが。一方、食事をするときには、正座で黙って食べなさいと。しゃべると怒られた。